

震災追悼校長講話 （令和8年1月16日4校時 震災追悼行事）

はじめに、専修コースの生徒さん、貴重なお話、誠にありがとうございました。この長田で起きたこと、ここで、体験された生徒さんが、この地域に今かかわっている私たちに伝えてくださったことで、よりリアリティを感じながら震災当時のことを感じる事ができました。また、震災についての体験者や映像を通して目に見える形で知ることは、伝えていくことにおいて大切なことです。

以前は「災害は忘れたころにやってくる」と言っていました。しかし、昨年末には青森で、年明けには鳥取で大きな地震があり、地震は特別な出来事ではなく、いつ起きてもおかしくない、いわば日常の一部となっています。だからこそ、震災で苦しんでいる人が今もまだたくさんいることを忘れないでください。

そして、次の地震への備えを忘れないでほしい。地震をはじめ自然災害を減らすことはできないが、対策をとれば被害は確実に減らせ最終的に犠牲者を出さないようにすることができます。対策を取れば犠牲者3万人が400人へ、これを0にしていく努力が必要なのです。そのために、まず防災訓練の意識や質を高めしていく必要があります。普段からやっていることであっても災害発生時にはできないことがあるからです。ましてや普段やっていないことは災害発生時には間違いなくできません。地震発生時、何かが落下するまでほんの数秒の猶予しかありません。いざという時に素早く反応するために、訓練をやりっ放しで終わらず振り返ってください。

さらに、家族や友人を大切に、地域の人たちにあいさつをしましょう。実は、人とのつながりがいざという時にあなたの命を救うからです。災害が起きた時、自分の身を守る力は、学校での訓練や知識だけでなく、日頃からの人との繋がりによっても大きく左右されます。地域の方々と日常的に挨拶を交わし、顔を知り合っていること。それは一見、災害とは関係ないように思えるかもしれませんが、しかし、いざという時に「助けを求められる」「声をかけてもらえる」関係があるかどうかは、あなたの命を守る大きな力になります。高校生として、地域の一員であるという自覚を持ち、普段からの関わりの大切さも考えてほしいと思います。この訓練が学校の中だけではなく、地域全体で命を守る力に繋がることを願っています。

明日は、6437名もの命を奪った阪神淡路大震災から31年になります。各地で追悼行事や防災訓練があります。多くの被災された方がいることを忘れることなく、今日の防災訓練のことを改めて明日も考える機会にしてください。